

平成30年度 調布市立第三中学校 学校経営計画

学校教育目標
 1 自ら学び考え、向上しようとする人 2 自他を思いやる、心豊かな人 3 心身を鍛え、たくましく生きる人

目指す学校像(ビジョン)
 ○生徒自らが主体的に活動する、地域に根ざした活気ある学校
 ○礼儀を重んじ日常的に挨拶ができ、自分や他人を大切に作る学校
 ○教師は専門性を高め授業力を向上させ、一人一人に向き合い、生徒・保護者・地域から信頼される学校

本校の現状と課題
 ・素直で明るく、考えて行動できる生徒が多く、授業や行事に意欲的に取り組んでいる。部活動への加入率が高く、活発に活動している。反面、生徒会活動や自治的・主体的活動への積極性が足りない。
 ・校内通級教室開設に向け特別支援教育の意義と目的の理解を深め、個に応じた一人一人を大切に作る教育の実践をする。
 ・全ての教科・領域において、夢や進路開拓に関心を高め、夢の実現のために努力する生徒を育成するため、主体的なキャリア教育を重視する。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を確立し、基礎的基本的な学習内容を身に付けさせる。 確かな学力の定着のため「主体的・対話的で深い学び」を目指した教員の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導、少人数指導やTTによる授業の推進 体験的な学習の実施 各種学力検査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 数学科で習熟度別指導、英語科で少人数指導を行い、生徒一人ひとりの十分な学習活動を確保した個に応じた指導を実施する。 個に応じた指導助言を図ると共に、十分な安全配慮を行うため、保健体育科でTTの実施をしていく。 体験的な学習を通して、自ら課題解決する主体的な学習機会を設け、活用できる学力の定着を図る。 各種学力検査を行い学力向上の指針の一つとすし、学校評価に活用する。 	全国学力学習状況調査において、全国平均を上回る。体力テストで都の平均を上回る。保護者アンケート学力向上の項目で肯定意見を全校平均70%以上。
		<ul style="list-style-type: none"> 教員相互による授業研修の実施 通常級における特別支援教育の推進 OJTを実施し若手教員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 教員がお互いの授業を見合うことで指導技術の交流を行いつつ、授業力を向上させる。 特別支援教育の事例や発達障害及びインクルーシブ教育への理解を深める研修を行う。 特別支援コーディネーターを核とした教育相談委員会を時間割内に設定し、組織的な特別支援教育の基盤を作る。 若手教員には、副校長・主幹・主任からミニ研修を実施し、授業や生徒理解、生徒指導等を学ぶ機会を設ける。 	校内研究を促進し、夏季研修、指導教諭模範授業、調布市中学校教育研修会への積極的な参加をする。生徒の授業評価の分かりやすさについて肯定意見80%以上。若手へのミニ研修を年間4回以上実施する。
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重、生命尊重を基盤とした豊かな心を育成する。 個人の規範意識を高め、集団として生徒が主体的に規律を重んじる意識を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的組織的な生活指導を行う。 いじめや危険性のある行為の早期発見と指導を行う。 道徳の授業の授業改善を進めると同時に、教育相談の充実を図り一人一人の心を大切に作る教育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導主幹を軸として、全員が情報を会議等で共有し、組織的に生徒指導にあたる。 いじめは「しない、させない、ゆるさない」を日常的に伝えていき、生徒アンケートを有効に活用する。いじめが発覚した際はいじめ防止対策委員会において対策を検討し、組織的に指導にあたるとともに、SC等との連携を図り被害生徒の心のケアを優先する。 「特別の教科 道徳」の実践的な研修を行い、教員の指導力の向上を図り、生徒の道徳実践力を育む。 二者・三者面談を充実させ、教師がカウンセリングマインドをもち、一人一人の思いを汲み取り、個に応じた支援を行う。 	学校評価の保護者アンケート各項目で肯定意見を80%以上 生徒アンケートで教師への相談のしやすさを80%以上、いじめ対策に対して85%以上の肯定的意見をめざす。 アレルギー事故と交通事故ゼロを目指す。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基本的な生活習慣の確立 生徒の意欲を引き出し、主体的活動的に取り組む機会を増やす。 自尊感情、自己有用感を持たせる。 自他を尊重し、自律的な集団行動をとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「気持ちのよいあいさつ」の励行、あいさつ運動や日頃からあいさつを交わせる環境づくりをし、生徒には「時間・挨拶・礼儀」を指導し、教職員は生徒への言葉かけを含む言語環境を整える。 生徒会活動、委員会活動、学活、行事等において、生徒が主体的に取り組む機会を意図的・計画的に設け、生徒が意欲的に取り組んだと実感できる機会を増やす。 授業や特別活動及び総合的な学習の時間に「体験的な活動」をふやし、成功体験を積ませることで自尊感情を高める。 部活動を通して、自分の得意な分野を広げ、成長を実感させることで自己有用感をもたせる。 	生徒アンケートや学期の生活振り返りで肯定意見が80%以上。「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」と考える生徒を80%以上を目指す。 「目標を持って学校生活を送っている」と考える生徒を80%以上を目指す。 「色々なことを学び成長した」と回答する生徒を80%以上にする。
健康・体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上を推進し、将来にわたって運動することの楽しさや、その意義を学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック教育推進校として、世界や障害者に目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック教育を通して生徒の体力向上を図ると共に、特別活動や総合的な学習の時間を利用して日本の伝統・文化や芸能、他国の文化等についての理解を深める国際理解教育の充実を図る。 ボランティア活動や環境教育等に対しても積極的に取り組み、多様な課題に対応できる生徒の育成を図る。 車いすバスケット体験を全校生徒対象に実施し、障害者への理解を深めるとともに、目標に向かって運動（努力）する大切さを認識させる。 	10月に車いすバスケット体験授業を実施する。実施後の前後でアンケート調査を行い、意識の向上を確認する。地域のボランティア活動への参加を促し、教員が支援する。学校評議委員や地域保護者からボランティアや部活動への評価を文書アンケートでいただき、分析する。
		<ul style="list-style-type: none"> 体育的行事や部活動を体力向上、心の指導の原点と位置づけた指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事に関する指導を通して生徒の自主性を養い、自己肯定感を高め、主体的な活動へと導く。 部活動を通じて、規範意識や自律的な意識を高め、生徒の自主的な活動へとつなげていく。 部活動部長会で奉仕活動等の善行を計画・実施し、所属意識をもたせて生徒相互で課題解決能力をつける。 	生徒会主体によるボランティア活動を年間に数回行わせ、それを学校評価にて検証する。生徒アンケートで部活動に積極的に参加している生徒を80%以上をめざす。体力・運動能力調査において、全国平均を上回る。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域と共に子どもたちを育てる拠点としての学校を目指し、家庭と地域から信頼され、安心される学校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりのため、保護者や地域の願いを学校運営に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に便りを発行して、活動を広報していく。学校、学年、生活指導等の便りを発行し、学校情報を伝える。 学校のホームページや学校安全メールを活用して、リアルタイムな情報提供と、活動を広く広報していく。 学校行事の保護者アンケート、学校評議委員会、学校関係者評価委員会等の意見を反映した学校運営を行う。 本校の活動を学区の小学校と連携し、学校公開、出前授業、部活動体験を実施し、学校選択に向けて積極的にアピールしていく。 	本校の活動や様子が外部からも分かるように定期的な便り配布や、HPの更新を頻繁に行う。また、学校安全・安心メールを活用し、必要な情報をリアルタイムに保護者に伝え協力をもとめる。保護者アンケートで85%肯定的評価を目指す。地域や保護者の意見が吸い上げ、校務改善につなげるための校内組織を構築する。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用したり、地域行事に関わり、共に活動する生徒の育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動、健全育成、福祉施設、公民館等と連携し、地域に貢献する活動を行う。 生徒会活動で、地域での活動意欲や郷土愛を育成し、地域のお祭り等に参加させボランティア活動につながる意識付けをする。 地域の人材を活用して、体験活動を実施して生徒に幅広い体験をさせる。 	生徒や学校事情が許す限り、地域の活動へ生徒を派遣し教員の参加を増やす。生徒アンケートで肯定意見が80%以上になるようにする。
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育への理解を深め、個に応じた指導を行う。 防災教育を重視し、自他の命の大切にする安全指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の特別支援教育への理解を深め、一人一人に分かりやすい指導を行い、学力向上と豊かな心を育む教育をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度予定の「校内通級教室」開設に向け、年3回の研修を実施し、教員の特別支援教育への理解を深める。 各教科の授業において、ユニバーサルデザインを意識した教室環境と見通しがもてる授業展開を工夫した「分かる授業」の工夫をする。 時間割の中に教育相談委員会を設け、各学年の課題を発見し、SCや調布市教育相談所と連携して、個に応じた支援を組織的に行えるように学校体制づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育への理解を教員が深めるだけでなく、保護者、生徒へも理解をすすめて、次年度の「校内通級教室」を有効に利用できる道筋をつくり、必要な支援を行えるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や部長会を中心にした生徒主導の活動を行わせる。 災害に対するの安全安心意識が向上する授業や取組の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちに与えられた課題や問題点を解決できるように、生徒会や部長会に仕事を与え、話し合いから実行させる。（いじめ撲滅活動、地域清掃、あいさつ運動、ファーストエイド等） 調布市防災教育の日において、生徒のボランティアによる主体的な活動を支援し、防災意識や安全意識をもたせる。 各教科で安全意識が高まる授業を計画・実施する。（命の大切さ） 	生徒会や部長会の活動を支援し、その効果を日常的に判断をし、生徒アンケートで高まりを図る。防災教育の日の参加者アンケートから次年度への改善点を探り、より地域に根ざした、安全指導を模索する。